

## 生徒指導 4 つの視点を意識した授業づくり

	生徒指導の 4 つの視点			
	自己存在感	共感の人間関係	自己決定の場	安全・安心
自分の考えをもつための時間を確保	○		○	○
誰と同じ考え方を表明する場面を確保	○		○	
自己の学習を振り返り			○	
ペアやグループで自分の思いや考えを話す	○	○	○	○
全体で自分の思いや考えを話す	○		○	
発表している人に顔を向けて聞く		○		○
友達に反応しながら聞く		○		○
友達につなげて話す		○		

1 学期の重点

学校教育目標を達成するために、上記のような手立てが考えられます。その際に、それぞれの手立てについて、生徒指導の 4 つの視点からも、児童に向けたフィードバックをその場で行っていくことが大切です。

例えば、「誰と同じ考え方を表明する場面を確保」するといった手立てをとった場合、学習的には「○○さんの考え方をもう一度説明できる人はいるかな？」などとファシリテートしていくことが考えられます。一方、生徒指導の視点から考えた場合、児童が自己存在感を感受する機会だととらえることができます。そのため、挙手などで確認した際に、「今手を挙げた人は、○○さんと同じ立場なんだね。よく考えることができたね。」といったフィードバックをしてあげることで、発表しない子も含め、多くの児童を授業の中で大切にしていることを感じてもらうことができます。



このように、学習の手立てを生徒指導の 4 つの視点からとらえ直したフィードバックを行うことで、自己指導能力の獲得を支える生徒指導に、学校全体で取り組んでいきましょう。

1 学期の重点は、「聞くこと」です。

1 学期の重点	スクールワイド PBS との関連
・発表している人に顔を向けて聞く	話している人のほうへ顔を向けよう
・友達に反応しながら聞く	うなずいたり反応したり質問したりして、聞いていることを伝えよう

「相手意識のある学び合い」の土台として、よい聞き手を育てます。よい児童の姿を見つけて「○○さん、聞き方すてきだね。」とほめるのはもちろん、「今みたいな反応があると、話す人も安心して話せるよね。」「きちんと目を向けてくれると、話す人もうれしいよね。」といった、共感の人間関係や安全・安心につながるような声掛けを心がけていきましょう。